

教材5「自分たちで選挙の仕組みを変えてみよう！」

選挙の目的と機能をふまえて、選挙で決めるべきこととそうでないことを区別したり、より良い選挙の仕組みを考えたりすることを通して、選挙に対する関心と有権者としての自覚を高める。

1 教材のねらい

選挙は民意を政治に反映させるという目的を持ちつつ、多様な意見の中から一つの政策を決定するという機能を果たしています。本教材は、このような選挙の理念を実現するための方法を考えることを通して、選挙に対する関心を深めることを目指しています。

投票するにあたって、私たちは、候補者がどのような人で、どのような政策を掲げているかということについてはよく検討します。しかし、選挙の仕組みそのものについてはあまり考えることがないように思います。選挙制度改革が政治課題の一つとして掲げられて久しいですが、一票の格差の問題をはじめ、未解決の問題が山積みにも関わらず、様々な立場の利害が絡み合っなかなか議論が進んでいません。有権者にとって自らの意見が最も反映されやすい公正な選挙のあり方ということが、本来最も肝心で議論の中心になるべきことなのですが、そうなっているとは言い難い状況も見られます。これは、私たち有権者の責任でもあります。選挙を、貴重な政治参加の機会と捉え、それを通していかに自分たちの意見を政治に反映させるかを真剣に考えるならば、選挙の仕組みをどうするかという問題は、政治家だけに任せておくべきことではなく、有権者自らが考えるべき事柄であることは明白です。

本教材は、選挙とは与えられた仕組みではなく、自ら積極的に活用して政治に参加する手段であると捉え直し、そのためのより良い仕組みを自分たち自身で考える力を身に付けようとするものです。

2 学習の進め方

(1)全体の流れと所要時間

- ・グループ分けとアイスブレイク(10分)
 - ・ものごとの決定の仕方について(15分)
 - ・ものごとの決定の仕方の規準の違い(15分)
 - ・選挙で決めるべきことと、そうでないこと(15分)
 - ・選挙で決めるべき事柄の規準の違い(15分)
 - ・皆の意見をよりよく反映する選挙の仕組みを考えてみよう(25分)
 - ・考案した選挙の仕組みを発表しよう(15分)
 - ・ふり返り(10分)
- 計 2 時間程度

(2)準備するもの

- ・ワークシート13「どのように決定しますか」 →68頁
(ものごとの決定の仕方についてのワークシート)
- ・ワークシート14「これ、選挙で決めますか」 →69頁
(選挙で決めるべきことについてのワークシート)
- ・ワークシート15「ふり返りシート」 →70頁
- ・模造紙(各グループに一枚)
- ・サインペン

(3)役割

- ・ファシリテーター

3 学習の手順

(1)グループ分けとアイスブレイク

参加者を3～4名のグループに分けて、いくつかのグループを作らせましょう。グループに分かれたら、司会を決めてもらいましょう。司会になった方には、グループの構成員同士の理解を深めて話し合いやすい雰囲気を作るために、次の要

領で自己紹介をするようお願いしてアイスブレイクを行いましょう。

①各自の名前

②自分が所属している組織の中の自分の役割と苦労していること

※必ずしも仕事上の事柄でなくても構いません。所属している組織のうち何でも差し支えのないものを紹介してもらいましょう。例えば家族の中のゴミだし係、自治会の広報委員など。

(2)ものごとの決定の仕方について

ワークシート13を配布し、ア～オについて、その決定の仕方として最も妥当な方法を挙げたうえで、それが妥当であると判断した理由を書いてもらいましょう。

ア オフィスの掃除当番

イ 忘年会の幹事

ウ 新しいプロジェクトのリーダー

エ 地域の自治会の長

オ 労働組合の長

ものごとを決定する際には、担うべき負担の公平性、その人物の能力や人柄、構成員の意思などが考慮されなければなりません。例えば、上の例のうちアやイについては公平性、ウとエとオについては能力や人柄、エとオについては構成員の意思が重視される場合が多いと思います。しかし、それも常にそうであるとは限りません。状況によっては、同じ事柄でも考慮すべき観点が違ってくる場合があります。

(3)ものごとの決定の仕方の規準の違い

ワークシート13の回答についてグループの中で互いの考えを交換し、意見が一致したところと一致しなかったところを確認したうえで、それぞれなぜ一致したか、なぜ一致しなかったかについて話し合しましょう。

(4)選挙で決めるべきことと、そうでないこと

ワークシート14を配布し、ア～オについて、

- ①選挙で決めるべきかどうか
 - ②常に選挙で決める必要はないとしたらそれはどのような場合か
 - ③そのように判断した理由
- を考えて記入してもらいましょう。

- ア 地域の自治会の長
- イ 労働組合の長
- ウ 学校のPTAの長
- エ 地方議会の議員
- オ 自治体の首長

選挙で決めるべき事柄には、その役割の適性を考えるうえで選ばれた人の能力や資質が特に重視され、かつその判断をするうえで構成員一人ひとりの意思が反映されていなければならないものが該当します。ただし、役割によっては、その判断が状況によって異なる場合もあります。

(5)選挙で決めるべき事柄の規準の違い

ワークシート14の回答についてグループの中で互いの考えを交換し、意見が一致したところと一致しなかったところを確認したうえで、それぞれなぜ一致したか、なぜ一致しなかったかについて話し合みましょう。

(6)皆の意見をよりよく反映する選挙の仕組みを考えてみよう

(4)で検討した事柄のうち一つを取り上げて、実際に選挙を行うことを想定して選挙の仕組みをグループで考えてもらいましょう。例えば、次のような状況が考えられます。

《事例》

ある地域の自治会の長を決めることになりました。会長と副会長を1名ずつ決定しなければなりません。会長、副会長の役割は自治会の運営とそのための連絡調整、そして会議の司会が中心ですが、自治会の予算案を検討し自治会に提案するという大きな権限も持っています。その地域は、AからDまでの4つの地区で構成されており、A地区の住民数が最も多く地域全体の半数に少し足りないくらいです。残りの3地区の住民数はほぼ同じです。その地域では数年前から、祭りの費用の自治会負担分をどの程度にするかということが問題になっていました。A地区の住民には祭りを縮小し負担を減らすことを求める人が多いのですが、他の地区では祭りをさらに賑やかなものにするために負担を増やすことを求める意見の人が多くなっています。

さて、この地域の自治会の会長と副会長をどのように決定すればよいでしょうか。その際に単純に一人一票を投じるというだけではなく、次のような観点でより良い仕組みはどのようなものかを検討してもらいましょう。

ア 投票用紙には1名の名前を書くだけにするか。その際、獲得票数が最も多い方を会長、次の方を副会長とするか。

イ 会長と副会長を連記するか、それぞれ別に選挙を行うか。

ウ 会長と副会長は別の地区から選出するようにするか、選出する地区は考慮しないか。

エ 投票用紙に名前を書くのではなく、予め全候補者の名前を投票用紙に書いておき、順位付けをする投票にするか。この場合には、順位による獲得点数を決めておいて、得点によって当選を決めるという方法が考えられる。

オ 獲得した票数が最も多い方を単純に当選者とするか、それとも過半数の票を獲得を条件とし、過半数の獲得者が出るまで選挙を繰り返すか。

(7) 考案した選挙の仕組みを発表しよう

グループごとに考案した選挙の仕組みを報告し、報告が一通り終わったら質疑を行いましょう。どの仕組みが最も適切かについて合意形成を図ってもよいと思います。

(8) ふり返り

全ての活動が終わったら、ワークシート15を配布して、今日の活動をふり返ってもらいましょう。時間があれば、感想を語ってもらっても構いません。

ワークシート13「どのように決定しますか」(ものごとの決定の仕方についてのワークシート)

決定をすべきものごと	決定の仕方(じゃんけん、くじ、選挙など)	妥当であると判断した理由
ア オフィスの掃除当番		
イ 忘年会の幹事		
ウ 新しいプロジェクトのリーダー		
エ 地域の自治会の長		
オ 労働組合の長		

名前()

ワークシート14「これ、選挙で決めますか」(選挙で決めるべきことについてのワークシート)

決定すべき事柄	選挙で決めるべきかどうか (決めるべき：○、決めるべきではない：×)	選挙で決める必要のない場合の状況	判断の理由
ア 地域の自治会の長			
イ 労働組合の長			
ウ 学校のPTAの長			
エ 地方議会の議員			
オ 自治体の首長			

ワークシート15「ふり返りシート」

◎本日の活動をふり返ってみましょう。

1 本日の活動を通して、自分たちの願いを実現するためには、何が必要であると思いましたが。

2 本日の活動の感想を自由に書いて下さい。

名前()